



**Oracle® Business
Intelligence Suite
Enterprise Edition**

**システム要件およびサポート
されるプラットフォーム**

リリース 10.1.3.2

2007年3月

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition システム要件およびサポートされるプラットフォーム, リリース 10.1.3.2

部品番号 : E05039-01

原本名 : System Requirements and Supported Platforms for Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition, Version 10.1.3.2

原本部品番号 : B32508-02

Copyright © 2007, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとし、著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する場合、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章： 概要

- Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメント 6
- 技術面でのサポート体制 6

第 2 章： Oracle Business Intelligence のプラットフォーム要件

- ハードウェア要件 10
 - Oracle Business Intelligence プラットフォームのハードウェア要件 11
 - Cluster Server のハードウェア要件 13
 - Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics のハードウェア要件 16
- サーバー環境の要件 16
 - サポートされているサーバーのオペレーティング・システム 17
 - サポートされている Web サーバー 18
 - SMTP に対する Oracle Business Intelligence Delivers のサポート 19
 - ODBC オープン・クライアント・インタフェースに対するサポート 19
- サポートされているデータソース 19
 - Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でサポートされているデータベース 20
 - Oracle Real Applications Clusters (RAC) に対するサポート 21
 - マルチディメンショナル・データソースに対するサポート 22
 - ODBC データソースに対するサポート 22
- クライアント環境の要件 22
 - サポートされている Web ブラウザ 23
 - サポートされているクライアントのオペレーティング・システム 23
- グローバリゼーション要件 24
- サポートされている環境の概要 26

第 3 章： サポートされているソフトウェアおよび付属プログラム

- サポートされているソフトウェア 28
- 付属プログラム 28
- ライセンス契約 32

第 4 章： 製品およびプラットフォームの可用性に関する最新情報

第 5 章： 計画されている動作確認

1 概要

このマニュアルには、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition システム要件およびサポートされるプラットフォームの最終的なリストが記載されています。特に指定されていないかぎり、このマニュアルに記載された要件は、Oracle Business Intelligence 製品ラインに含まれるプラットフォームおよび関連するエンドユーザー・アプリケーションすべてに適用されます。Oracle Business Intelligence の詳細は、『Oracle Business Intelligence Infrastructure インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

このマニュアルの内容は次のとおりです。

- [第 1 章「概要」](#)（この章）。内容は次のとおりです。
 - [Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメント](#)
 - [技術面でのサポート体制](#)
- [第 2 章「Oracle Business Intelligence のプラットフォーム要件」](#)。Oracle Business Intelligence のプラットフォームおよびハードウェアの要件について説明しています。
- [第 3 章「サポートされているソフトウェアおよび付属プログラム」](#)。Oracle Business Intelligence アプリケーションでサポート、組み込みまたは配布されている、サード・パーティ・ベンダー製のソフトウェアの詳細なリストを記載しています。
- [第 4 章「製品およびプラットフォームの可用性に関する最新情報」](#)。Oracle Business Intelligence での製品可用性の例外のリストを記載しています。
- [第 5 章「計画されている動作確認」](#)。今後の製品リリースで計画されている動作確認のリストを記載しています。

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメント

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメントは、Oracle Technology Network (OTN) と Siebel SupportWeb で入手できます。

Oracle Technology Network で Oracle Business Intelligence Suite Enterprise のドキュメントにアクセスするには

「Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition Documentation Library」にアクセスします (URL は次のとおり)。

http://www.oracle.com/technology/documentation/bi_ee.html

Siebel SupportWeb で Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメントにアクセスするには

- 1 <http://supportweb.siebel.com> にアクセスし、サポート・サービスから付与されているログイン名とパスワードを使用してログインします。これらの情報がない場合は、グローバル・テクニカル・サポート (<mailto:support@siebel.com>) にお問い合わせください。
- 2 「Self Service」で「Browse/Search Knowledge Base」をクリックします。
- 3 左側のペインで「Product Documentation」をクリックします。

技術面でのサポート体制

Oracle Business Intelligence 製品の実装を最大限に成功させ、それに伴う投資から最大限の効果を得るには、社内でサポート責任者を任命し、その責任者が代表してトレーニングを受けることをお勧めします。このトレーニングでは、最初の実施する製品関連の基本的なトレーニングのほか、必要に応じて特定のロールや実装フェーズ、特別な製品の使用法や移行に関連した補足的なトレーニングを実施します。このトレーニングにより、ユーザーの実装チームは、問題を解決したり、グローバル・カスタマ・サポート・チームに必要な技術情報を伝達したりするための適切なレベルの知識を習得できるため、オラクル社は、ユーザーと効率的に協力して、問題を迅速に解決できるようになります。

任命されたサポート責任者は、ユーザー企業とグローバル・カスタマ・サポートとの間で、プログラムの技術的なサポート情報を交換し合う唯一の窓口となります。業界のベスト・プラクティスとしては、Oracle Business Intelligence の実装に関する 1 次サポートをユーザーに直接提供する組織とプロセスを確立し、運用することをお勧めします。グローバル・カスタマ・サポートは、ユーザー企業で任命されてトレーニングを受けたサポート責任者に対して、2 次サポートを提供します。このサポート責任者には、管理者アクセス権を付与し、リポジトリ・ファイル、ログ・ファイル、データベースの抽出など、問題の診断に必要な情報を入手できるようにします。

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition 製品に関する知識と投資効果を最大限に得る方法は次のとおりです。

- サポート責任者を任命し、その責任者がオラクル社のトレーニングを受けます。
- オラクル社のトレーニングを受けたサポート責任者が、ユーザーに対して技術的サポートを提供します。グローバル・カスタマ・サポートは、任命されたサポート責任者に対してのみ直接サポートを提供します。

効率的でタイムリーなサポートを受け、グローバル・カスタマ・サポートのナレッジ・ベースにアクセスする方法は次のとおりです。

- グローバル・カスタマ・サポートは、Web ベースを主体とするサービスであり、Siebel SupportWeb (<http://ebusiness.siebel.com/supportweb>) を通じてアクセスできます。サービスに関する新しい要望は、この SupportWeb 経由でオラクル社に送信できます。また、SupportWeb では、問題解決に必要なナレッジ・ベースを検索することもできます。
- サポート責任者に、Siebel SupportWeb への読取りおよび書込みアクセス権を付与します。ユーザー企業内の他のプロジェクト・チーム・メンバーには、ナレッジ・ベースにアクセスできる読取り専用アカウントを付与します。

技術的な問題や更新情報は、Siebel SupportWeb (<http://ebusiness.siebel.com/supportweb>) にお送りください。SupportWeb のアカウントが付与されていない場合、または質問がある場合は、<mailto:support@siebel.com> にメールを送るか、ご担当地域のサポート・センターにお電話ください。

北米：	+1 800 214 0400 または +1 650 341 0700
ブラジル（サンパウロ）：	+55 11 5189 3330
英国（ロンドン）：	+44 118 92 45678
ドイツ（ミュンヘン）：	+49 891 430 1710
フランス（パリ）：	+44 118 92 45678
アイルランド（ゴールウェイ）：	+44 118 92 45678
日本（東京）：	0120 606 750（日本国内専用フリーダイヤル） +81 3 5251 8884（国際電話）
シンガポール：	+65 6436 1866

各地のサポート・センターの営業時間外に、本番環境で緊急を要する重大度 1 の問題が発生した場合は、次の番号にお電話ください。

+1 800 214 0400 または +1 650 341-0700

2

Oracle Business Intelligence のプラットフォーム要件

この章の内容は次のとおりです。

- ハードウェア要件
- サーバー環境の要件
- サポートされているデータソース
- クライアント環境の要件
- グローバリゼーション要件
- サポートされている環境の概要

ハードウェア要件

この項では、Oracle Business Intelligence 10.1.3.2 のハードウェアおよびネットワークの要件について説明します。

オラクル社では、この項に示した環境において、許容可能なパフォーマンスが実現することを動作確認しています。ただし、特に複数のアプリケーションが同時に実行される環境では、さらに高速のプロセッサを使用したりメモリーを増設すると、パフォーマンスが向上します。

注意：表 1、表 2、表 3 および表 4 に示したハードウェア要件は最小要件であり、スケーラビリティに影響する様々な要素が考慮されていないため、あくまでガイドラインとして使用してください。キャパシティ・プランニングまたは拡張のサポートについては、ハードウェア・ベンダーまたは Oracle Consultancy にお問い合わせください。

Oracle Business Intelligence プラットフォームのハードウェア要件

Oracle Business Intelligence プラットフォームのコンポーネントのハードウェア要件について、表 1 および 12 ページの表 2 で説明します。

表 1. Windows における Oracle Business Intelligence の最小要件

説明	要件
Oracle Business Intelligence Server のコンポーネント :	CPU および RAM: 1GHz、2GB RAM
Oracle Business Intelligence Server Oracle Business Intelligence Administration Tool Oracle Business Intelligence Scheduler	ディスク領域: 2GB のハードディスク領域、およびキャッシュ記憶域と Scheduler 結果セット用の適切なディスク領域（「一時ディスク領域」を参照）。 一時ディスク領域: 2GB
Oracle Business Intelligence Presentation Services	CPU および RAM: 1GHz、2GB RAM ディスク領域: 2GB のハードディスク領域、およびキャッシュ記憶域とログ・ファ イル用の適切なディスク領域（「一時ディスク領域」を参照）。 一時ディスク領域: 2GB

表 2. Linux における Oracle Business Intelligence の要件

説明	要件
Oracle Business Intelligence Server のコンポーネント : Oracle Business Intelligence Server Oracle Business Intelligence Scheduler	CPU および RAM: 1GHz、2GB RAM ディスク領域: 2GB、およびキャッシュ記憶域と Scheduler 結果セット用の適切な ディスク領域（「一時ディスク領域」を参照）。 一時ディスク領域: 2GB
Oracle Business Intelligence Presentation Services	CPU および RAM: 1GHz、2GB RAM RAM: 2GB 以上 ディスク領域: 2GB、およびキャッシュ記憶域とログ・ファイル用の適切なディス ク領域（「一時ディスク領域」を参照）。 一時ディスク領域: 2GB

Cluster Server のハードウェア要件

Cluster Server の要件について、表 3 および 14 ページの表 4 で説明します。

表 3. Windows における Cluster Server の要件

説明	要件
クラスタ化された Oracle Business Intelligence Server をホスティングするマシン、または Oracle Business Intelligence Server、Oracle Business Intelligence Scheduler および Cluster Controller をホスティングするマシン	<p>プロセッサおよび RAM: 1GHz、2GB RAM</p> <p>ディスク領域: 1GB</p>
Cluster Controller または Oracle Business Intelligence Scheduler をホスティングするマシン	<p>プロセッサおよび RAM: 500MHz、1GB</p> <p>ディスク領域: 約 100MB のハードディスク領域</p>
リポジトリ公開ディレクトリとして使用する共有ファイル・システム	<p>リポジトリがオンライン・モードで更新されると、リポジトリ公開ディレクトリに対して、クラスタ化されたサーバーがすべて、リポジトリの変更がないかを起動時に検査することが公開されます。リポジトリ公開ディレクトリの場所は、NQSConfig.ini ファイルの REPOSITORY_PUBLISHING_DIRECTORY パラメータで指定します。</p> <p>特徴: リポジトリ公開ディレクトリは、クラスタ内のすべてのサーバーで認識できる有効な場所に配置する必要があります。</p> <p>クラスタ内のすべての Oracle Business Intelligence Server (NQClusterConfig.ini ファイルのパラメータ SERVERS で指定) には、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。¹</p> <p>ディスク領域: 約 200MB のハードディスク領域</p> <p>クラスタ化すると、共有ファイル・システムに発生する I/O ロードが最小になることに注意してください。クラスタ処理を正常に実行できる信頼性の高いファイル・システムであるかぎり、使用するファイル・システムの推奨タイプは特にありません。</p>

表 3. Windows における Cluster Server の要件

説明	要件
クラスタ対応キャッシュとともに使用する共有ファイル・システム	<p>クエリー・キャッシュがクラスタ全体で共有されているとき、アクティビティのキューに入っている、(iBot または ODBC プロシージャ・コールからの) キャッシュをシードするリクエストは、共有ディレクトリで管理されます。すべての Oracle Business Intelligence Server には、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。¹</p> <p>ディスク領域:</p> <p>キャッシュ記憶域に適したディスク領域は、具体的なデプロイ状況によって異なります。</p>
Presentation Catalog とともに使用する共有ファイル・システム ²	<p>特徴:</p> <p>すべての Oracle Business Intelligence Presentation Services サーバーには、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。¹</p> <p>ディスク領域:</p> <p>Presentation Catalog に適したディスク領域は、具体的なデプロイ状況によって異なります。</p>

1. Oracle Business Intelligence のサービスは、ネットワーク共有に対するアクセス権を持つドメイン・ユーザーとして実行する必要があります。Microsoft Windows では、system アカウントには、ネットワーク共有に対する読取りまたは書込みが許可されません。
2. 共有ファイル・システムには、Network Attached Storage (NAS) や Storage Area Network (SAN) などのストレージ・デバイスを使用できます。Presentation Catalog は、SAN では Oracle Cluster File System (OCFS2)、NAS では NFS でテスト済です。

表 4. Linux における Cluster Server の要件

説明	要件
クラスタ化された Oracle Business Intelligence Server をホスティングするマシン、または Oracle Business Intelligence Server、Oracle Business Intelligence Scheduler および Cluster Controller をホスティングするマシン	<p>CPU: 1GHz</p> <p>RAM: 2GB</p> <p>ディスク領域: 2GB</p>
Cluster Controller または Oracle Business Intelligence Scheduler をホスティングするマシン	<p>CPU: 500GHz</p> <p>RAM: 1GB</p> <p>ディスク領域: 2GB</p>

表 4. Linux における Cluster Server の要件

説明	要件
リポジトリ公開ディレクトリとして使用する共有ファイル・システム	<p>リポジトリがオンライン・モードで更新されると、リポジトリ公開ディレクトリに対して、クラスタ化されたサーバーがすべて、リポジトリの変更がないかを起動時に検査することが公開されます。リポジトリ公開ディレクトリの場所は、NQSCONFIG.INI ファイルの REPOSITORY_PUBLISHING_DIRECTORY パラメータで指定します。</p> <p>特徴：</p> <p>リポジトリ公開ディレクトリは、クラスタ内のすべてのサーバーで認識できる有効な場所に配置する必要があります。</p> <p>クラスタ内のすべての Oracle Business Intelligence Server (NQClusterConfig.ini ファイルのパラメータ SERVERS で指定) には、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。</p> <p>ディスク領域：</p> <p>約 200MB のハードディスク領域</p> <p>クラスタ化すると、共有ファイル・システムに発生する I/O ロードが最小になることに注意してください。クラスタ処理を正常に実行できる信頼性の高いファイル・システムであるかぎり、使用するファイル・システムの推奨タイプは特にありません。</p>
クラスタ対応キャッシュとともに使用する共有ファイル・システム	<p>クエリー・キャッシュがクラスタ全体で共有されているとき、アクティビティのキューに入っている、(iBot または ODBC プロシージャ・コールからの) キャッシュをシードするリクエストは、共有ディレクトリで管理されます。</p> <p>ディスク領域：</p> <p>キャッシュ記憶域に適したディスク領域は、具体的なデプロイ状況によって異なります。</p>
Presentation Catalog とともに使用する共有ファイル・システム	<p>特徴：</p> <p>すべての Oracle Business Intelligence Presentation Services Instance には、このディレクトリに対する読取りアクセス権および書込みアクセス権が必要です。</p> <p>ディスク領域：</p> <p>Presentation Catalog に適したディスク領域は、具体的なデプロイ状況によって異なります。</p>

Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics のハードウェア要件

Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics の要件について、表 5 で説明します。

表 5. Microsoft Windows/Windows XP における Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics の要件

要件の説明	プロセッサ	使用可能なディスク領域	RAM
最小	最新型のプロセッサ（最低でも 800MHz）	1GB	512MB
MS Office アプリケーションに推奨	最新型のプロセッサ（最低でも 800MHz）	1GB	512MB
Siebel Remote アプリケーションに推奨	最新型のプロセッサ（最低でも 800MHz）	2GB	512MB

サーバー環境の要件

この項の内容は次のとおりです。

- サポートされているサーバーのオペレーティング・システム
- サポートされている Web サーバー
- SMTP に対する Oracle Business Intelligence Delivers のサポート
- ODBC オープン・クライアント・インタフェースに対するサポート

サポートされているサーバーのオペレーティング・システム

Oracle Business Intelligence は、表 6 に記載されたサーバーのオペレーティング・システムをサポートしています。また、表 7 に記載された、サポートされているサーバーのオペレーティング・システムのパッチ・レベルをサポートします。

表 6. サポートされているサーバーのオペレーティング・システム

クライアント・タイプ	オペレーティング・システム ¹
Oracle Business Intelligence Server	Microsoft Windows 2000/2003 Server
Oracle Business Intelligence Presentation Services	Red Hat Linux 4.x
Oracle Business Intelligence Publisher (XML Publisher)	Novell SUSE 9.x Oracle Enterprise Linux 4 Update 4

1. Windows および Linux 64-bit のサポート：Windows 版および Linux 版の場合、ソフトウェアは 32-bit です。ソフトウェアは、32 ビット・エミュレーションをサポートする 64 ビット・プロセッサ (Itanium2、AMD64 および EM64T) で実行できます。

表 7. サポートされているサーバーのオペレーティング・システムのパッチ・レベル

サーバーのオペレーティング・システム	パッチ・レベル
Microsoft Windows 2000 Server/Advanced Server	Service Pack 4 (5.0.2.195) 以上
Microsoft Windows 2003 Enterprise Edition	なし

サポートされている Web サーバー

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、表 8 に示す Web サーバーで動作確認されています。

表 8. 動作確認されている Web サーバー

サーバーのオペレーティング・システム	Web サーバーとパッチ・レベル
Linux (17 ページの表 6 を参照)	Apache Tomcat 5.5.x Oracle Application Server リリース 10.1.3.1 IBM WebSphere Application Server のバージョン 5.1 と 6.0
Microsoft Windows (17 ページの表 6 を参照)	Apache Tomcat 5.5.x Windows 2000 では Microsoft IIS 5.0、Windows 2003 では IIS 6.0 ¹ Oracle Application Server リリース 10.1.3.1 IBM WebSphere Application Server のバージョン 5.1 と 6.0

1. Microsoft IIS は、Oracle Business Intelligence Publisher では Web サーバーとしてサポートされていません。Oracle Business Intelligence Publisher は、J2EE ベースの Application Server でサポートされています。

注意: Oracle Business Intelligence Web Server には、使用するプラットフォームに応じて、前述の推奨バージョンに Java Runtime Environment (JRE) もインストールする必要があります。

Web ポータルのサポート

Oracle Business Intelligence は、表 9 に示す Web ポータルをサポートします。

表 9. サポートされている Web ポータル

ポータル	バージョン
Oracle Portal	10.1.4.x
IBM WebSphere Portal Server	5.1、6.0

Single Sign-On (SSO) Server のサポート

表 10 に示す SSO Server は、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition で動作確認されています。

表 10. 動作確認されている SSO Server

SSO Server	バージョン
Oracle Identity Management 10g (10.1.4.X)	10.1.4.x

ID 管理のサポート

Oracle Business Intelligence は、表 11 に示す ID 管理アプリケーションをサポートします。

表 11. サポートされている ID 管理アプリケーション

SSO Server	バージョン
Oracle Identity Management 10g	10.1.4.x
IBM LDAP Server	5.x
Windows ADSI	2000、 2003

SMTP に対する Oracle Business Intelligence Delivers のサポート

Oracle Business Intelligence Delivers は、MIME RFC 2110 に準拠した集計 HTML カプセル化を使用して、MIME コンテンツを生成し、それを SMTP プロトコルを介して SMTP サーバーに送信します。ただし、コンテンツのレンダリングは、実装されている電子メール・クライアントによって異なります。

ODBC オープン・クライアント・インタフェースに対するサポート

オラクル社では、サード・パーティのソフトウェア製品が SQL クライアントとして Oracle Business Intelligence Server に接続できるように、ODBC クライアント・ドライバを用意しています。そのため、ODBC 2.0 および ODBC 3.5 インタフェースがサポートされています。Microsoft Access や Business Objects など数多くのクライアントを使用できますが、オラクル社では特定のクライアントについて明示的な動作確認を行っていません。

サポートされているデータソース

注意： Oracle Business Intelligence では、様々なデータベースのパフォーマンスを最適化できるように、データベース固有のコードが作成されます。データベースのバージョンの違いによって変更が生じるため、明示的にテストされたバージョンのデータベース・クライアントとサーバー・ソフトウェアのみを次に記載しています。他のサービス・パックやパッチ・レベルのテストおよび動作確認が行われた場合、その情報も今後お知らせします。

上位のパッチ・レベルを実行しているユーザーが Oracle Business Intelligence ソフトウェアの使用時に問題を検出した場合、グローバル・テクニカル・サポートはその問題を通常どおりに調査します。Oracle Business Intelligence ソフトウェアに欠陥が検出された場合、通常のサポート・プロセスに従って、その欠陥が修正される可能性と時期を判断します。そのような場合、検出された欠陥は、Oracle Business Intelligence ソフトウェアではなく、上位のバージョンのデータベース・ソフトウェアに存在するとみなされます。オラクル社では、その欠陥を回避するパッチを作成することはできませんが、そのパッチは保証できず、実際には技術的に不可能な場合もあります。その場合、ユーザーはデータベース・ベンダーに問い合せて、そのデータベース・ソフトウェアの問題を修正するパッチを入手するか、データベース・ソフトウェアのバージョンを下げ、Oracle Business Intelligence ソフトウェアとともに実行しても問題が発生しないようにする必要があります。

データベースのアップグレード後にユーザーが実施する回帰テストおよび受入れテストでは、本番環境で使用する予定のすべての機能を全面的にテストし、データベース・ソフトウェアのアップグレードにより重大な問題が発生しないことを確認する必要があります。

この項の内容は次のとおりです。

- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でサポートされているデータベース
- Oracle Real Applications Clusters (RAC) に対するサポート
- マルチディメンショナル・データソースに対するサポート
- ODBC データソースに対するサポート

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でサポートされているデータベース

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、表 12 に示すリレーショナル・データベースをサポートします。また、Oracle Business Intelligence では、22 ページの表 14 で詳述するマルチディメンショナル・データソース、および 22 ページの「ODBC データソースに対するサポート」で詳述する ODBC データソースへの接続が実現します。

表 12. サポートされているデータベース

ベンダーと製品	バージョン	接続ソフトウェア
Microsoft SQL Server 2000	2000 Service Pack 3	SQL Server ODBC Driver/ Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.7
Microsoft SQL Server 2005 ¹	2005	SQL Server Native Client 2005- 99-1355-00/ SQL Server ODBC Driver バージョン 3.70.08.20 Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.8

表 12. サポートされているデータベース

ベンダーと製品	バージョン	接続ソフトウェア
IBM DB2 Universal Database (UDB) Enterprise Edition/ Workgroup Edition for Windows、UNIX、Linux (IA-32)	8.2 (FixPak 5 シリーズ以上)	DB2 SDK 8.2.x Client
IBM DB2 Universal Database (UDB) for OS/390、z/OS (NFM モード専用)	バージョン 8	IBM DB2 UDB Admin Client DB2 v8.1 FP12 シリーズ
Oracle 9i Enterprise Server ²	9.2.0.7 以上	Oracle ネイティブ・クライアント 9.2.0.7 または 10.1.0.5
Oracle 10g Enterprise Server ²	10.1.0.5	Oracle ネイティブ・クライアント 10.1.0.5/ ネイティブ・クライアント OCI 10g2
	10.2.0.1.0	Oracle ネイティブ・クライアント 10.2.0.1.0
NCR Teradata	V2R5.1.x、V2R6.0、V2R6.1	3.5.0.7
Sybase SQL Anywhere ³	9.0	対応する SQL Anywhere ODBC ドライバ
MySQL ⁴	4.1、5.0	
XMLA Data Source		

1. Microsoft では、SQL Server Native Client を Microsoft SQL Server 2005 とともに使用することを推奨しています。
2. Oracle 9i および 10g データベースの場合、ネイティブ・クライアント OGI 10g2 をお勧めします。
3. Sybase SQL Anywhere は、Oracle Business Intelligence Disconnected Client および Oracle Business Intelligence Publisher に対してのみサポートされます。
4. MySQL データベースは、Oracle Business Intelligence Publisher Scheduler に対してのみサポートされます。

Oracle Real Applications Clusters (RAC) に対するサポート

表 13 に、Oracle RAC に対するサポートを示します。

表 13. Oracle RAC に対するサポート

Oracle サーバーのバージョン	動作確認されている Oracle バージョン
Oracle 9i Enterprise Server	Oracle 9.2.0.7
Oracle 10g Enterprise Server	Oracle 10.2.0.3

マルチディメンショナル・データソースに対するサポート

Oracle Business Intelligence は、表 14 に示すマルチディメンショナル・データソースをサポートします。

表 14. 動作確認されているマルチディメンショナル・データソース

ベンダーと製品	バージョン
Microsoft SQL Server Analysis Services	2000 Service Pack3、2005
SAP BW	3.5
Oracle OLAP	10.2.0.2.0

ODBC データソースに対するサポート

Oracle Business Intelligence は ODBC をサポートしているため、Oracle Business Intelligence Server は、Windows で実行されているとき、ODBC 2.0、2.1 または 3.5 の規格をサポートするどのようなリレーショナル・データベース管理システムに対してもクエリーすることができます。このリレーショナル・データベース管理システムは、データ・ウェアハウス、業務系データ・ストア、トランザクション・システムのいずれであってもかまいません。

クライアント環境の要件

この項の内容は次のとおりです。

- サポートされている Web ブラウザ
- サポートされているクライアントのオペレーティング・システム

サポートされている Web ブラウザ

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition には、クライアントのインストール要件はありません。Oracle Business Intelligence Enterprise Edition は、表 15 に示す Web ブラウザをサポートします。

表 15. サポートされている Web ブラウザ

クライアントのオペレーティング・システム	サポートされている Web ブラウザ
Microsoft Windows	Microsoft Internet Explorer 6.x ¹ Microsoft Internet Explorer 7.0 ¹ Firefox 1.5.x Firefox 2.0
Linux	Firefox 1.5.x Firefox 2.0

1. ヘブライ語ロケール (HEB) は、Microsoft Internet Explorer でのみ使用できます。

サポートされているクライアントのオペレーティング・システム

Oracle Business Intelligence は、表 16 に示すクライアントのオペレーティング・システムをサポートします。

表 16. サポートされているクライアントのオペレーティング・システム

クライアント・タイプ	オペレーティング・システムとパッチ・レベル
Oracle Business Intelligence Administration Tool	Windows 2000
Oracle Business Intelligence Catalog Manager	Windows 2003 SP1 (32 ビットのみ)
Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics Client	Windows XP SP2 以上
Oracle Business Intelligence Briefing Book Reader	
Oracle Business Intelligence Publisher Desktop	
Oracle Business Intelligence Microsoft Excel Add-In ¹	Windows Office XP 以上

1. Oracle Business Intelligence Microsoft Excel Add-In には、Microsoft .Net Framework 2.0 が必要です。

Oracle Business Intelligence Publisher Desktop は、表 17 に示す Microsoft Office アプリケーションをサポートします。

表 17. Oracle Business Intelligence Publisher Desktop でサポートされている Microsoft Office アプリケーション

Microsoft Office アプリケーション	バージョン
Word	2000
	2002
	2003
Excel	2000
	2002
	2003

グローバリゼーション要件

Oracle Business Intelligence は、お客様の要望に基づいて、特定の言語の国際化およびローカリゼーションをサポートします。Oracle Business Intelligence 10.1.3.2 は、表 18 に示す言語のローカリゼーションをサポートします。サポートされている言語の最新情報については、Oracle サポート・サービスへお問い合わせください。

表 18. Oracle Business Intelligence 10.1.3.2 でサポートされている言語

言語	言語コード / Oracle Business Intelligence の言語コード	サポートされているデータベース・コード・ページ
中国語（簡体字）	CHS/l_zh	Unicode
中国語（繁体字）	CHT/l_zh-tw	Unicode
チェコ語	CSY/l_cs	Unicode
デンマーク語	DAN/l_da	従来型 /Unicode
オランダ語	NLD/l_nl	従来型 /Unicode
英語	ENU/l_en	従来型 /Unicode
フィンランド語	FIN/l_fi	従来型 /Unicode
フランス語	FRA/l_fr	従来型 /Unicode
ドイツ語	DEU/l_de	従来型 /Unicode
ヘブライ語	HEB/l_iw	従来型 /Unicode
イタリア語	ITA/l_it	従来型 /Unicode
日本語	JPN/l_ja	従来型 /Unicode

表 18. Oracle Business Intelligence 10.1.3.2 でサポートされている言語

言語	言語コード / Oracle Business Intelligence の言語コード	サポートされているデータベース・コード・ページ
韓国語	KOR/l_ko	Unicode
ポルトガル語 (ブラジル)	PTB/l_pt-br	従来型 /Unicode
ポルトガル語 (ヨーロッパ)	PTG/l_pt	従来型 /Unicode
スペイン語	ESN/l_es	従来型 /Unicode
スウェーデン語	SVE/l_sv	従来型 /Unicode

サポートされている環境の概要

同機種環境と異機種環境

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition Infrastructure のコンポーネントは、表 19 で定義する例に示すように、様々な同機種および異機種のサーバー環境でサポートされます。同機種環境では、データベース、Oracle Business Intelligence Server および Oracle Business Intelligence Presentation Services が、すべて同じプラットフォームにデプロイされます。異機種環境では、これらのサーバーは、サポートされている別々のプラットフォームにデプロイできます。

表 19. Oracle Business Intelligence アプリケーションでサポートされている同機種環境および異機種環境の例

データベース	Oracle Business Intelligence Server	Oracle Business Intelligence Presentation Services	Oracle Business Intelligence Web Server
IBM DB2 UDB IBM DB2 ESE IBM DB2 UDB for OS/390、z/OS	Microsoft Windows 2000/2003 Linux (17 ページの表 6 を参照)	Linux (17 ページの表 6 を参照) Microsoft Windows 2000/2003	Microsoft Windows 2003 Server で実行される Microsoft IIS Web Server または RedHat 4.x で実行される Oracle Application Server OC4J/HTTP リリース 10.1.3.1 (Web サーバーの動作確認については、18 ページの表 8 を参照) Microsoft Windows 2000/2003 で実行される Apache Tomcat
Oracle 9i Enterprise Server Oracle 10g Enterprise Server			
Microsoft SQL Server 2000 Microsoft SQL Server 2003 Microsoft SQL Server 2005			
NCR Teradata			

3

サポートされているソフトウェアおよび 付属プログラム

この章の内容は次のとおりです。

- サポートされているソフトウェア
- 付属プログラム
- ライセンス契約

サポートされているソフトウェア

Oracle Business Intelligence 10.1.3.2 は、表 20 に示すサード・パーティのソフトウェア製品をサポートします。これらの製品は、販売元のベンダーから直接入手する必要があります。

表 20. サポートされているソフトウェア

ベンダーと製品	バージョン	関連するモジュール	機能
Adobe Acrobat Reader	6.0、7.0	Oracle Business Intelligence	Portable Document Format (PDF) ドキュメントの表示に使用
Adobe Flash Player	7、8、9	Oracle Business Intelligence Presentation Services	Web クライアント・ブラウザでグラフの表示に使用
IBM DB2 Cube Views	DB2 UDB 8.2	Oracle Business Intelligence	Oracle Business Intelligence のメタデータを DB2 に統合し、マルチディメンショナル分析を迅速化するために使用
IBM Directory Server	5.1 以上	Oracle Business Intelligence (LDAP Security Adapter)	LDAP のサポート (LDAP Security Adapter)

付属プログラム

表 21 に示す付属プログラムは、その所有者であるベンダーとのライセンス契約を通じて、Oracle Business Intelligence 10.1.3.2 に組み込まれます。すべての付属プログラムの使用は、ユーザー企業とオラクル社間のソフトウェア・ライセンスおよびサービス契約 (SLSA) の条件で規定されています。

必要な場合に付属プログラムをインストールする方法については、ご使用のプラットフォームのサーバー・インストール・ガイド、および Oracle Business Intelligence ドキュメント・セットの他のインストール情報を参照してください。

ご使用の Oracle Business Intelligence ソフトウェアには、表 21 に示す付属プログラムの一部またはすべてが含まれる場合があります。

表 21. 付属プログラム

ベンダーと製品	バージョン	Oracle Business Intelligence の関連モジュール	配布方法と説明
Apache Software Foundation Xerces - C++	2.6.0、2.7 および 1.6.0	Oracle Business Intelligence Server	埋込み。XML パーサー。
Apache Software Foundation Xerces - Java	1.4.4	Oracle Business Intelligence (Installer)	埋込み。XML パーサー。
Apache Software Foundation Apache file upload	1.0	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons BeanUtil	1.6	Oracle BI Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Discovery	1.2.1	Oracle BI Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons DBCP	1.2.1	Oracle BI Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Digester	1.7	Oracle BI Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Pool	1.2	Oracle BI Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Collections v3.1	3.1	Oracle BI Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Log4j	1.4.8	Oracle BI Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons El		Oracle BI Publisher	埋込み。
Apache Software Foundation Apache Commons Logging	1.04	Oracle BI Publisher	埋込み。

表 21. 付属プログラム

ベンダーと製品	バージョン	Oracle Business Intelligence の関連モジュール	配布方法と説明
Apache Software Foundation Apache Commons Logging-api	1.04	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Apache Software Foundatation Xerces C++	2.4.0	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み。
Apache Software Foundation Axis - Java	1.2.1	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み。
Corda PopCharts	5.1	Oracle Business Intelligence Web	埋込み (UNIX)。配布 (Windows)。グラフ作成エンジン。
Crypto++ 3DES algorithm	5.4	Oracle Business Intelligence Server	埋込み。パスワードの暗号化に使用。
DataDirect (Merant) Connect ODBC Driver Manager	4.1	Oracle Business Intelligence Server	埋込み。サポートされている UNIX プラットフォームに Oracle Business Intelligence ODBC ドライバをロード。
Tivoli Access Manager for eBusiness の IBM Directory Server コンポーネント	5.1	Oracle Business Intelligence LDAP Security Adapter	埋込み。LDAP ディレクトリとの統合による外部ユーザー認証のサポート。
IBM LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) SDK	5.1	Oracle Business Intelligence LDAP Security Adapter	埋込み。LDAP ディレクトリとの統合による外部ユーザー認証のサポート。
IBM LDAP [IBM Global Security Toolkit (GSKit) を含む]	7.0.3.3	Oracle Business Intelligence Server	埋込み。
Microsoft InstallShield Developer	5.0 SP1	Oracle Business Intelligence	埋込み。Windows プラットフォームへの Oracle Business Intelligence アプリケーションのインストールに使用。

表 21. 付属プログラム

ベンダーと製品	バージョン	Oracle Business Intelligence の関連モジュール	配布方法と説明
Microsoft Visual Studio 7.0 のランタイム・コンポーネント		Oracle Business Intelligence Installer	配布。
Open SSL	0.9.8c	Oracle Business Intelligence Presentation Services Oracle Business Intelligence Server	埋込み。
OpenSymphony Quartz	1.5.1	Oracle Business Intelligence Publisher	埋込み。
Rogue Wave Stingray Objective Studio の再配布可能 コンポーネント	R2000	Oracle Business Intelligence Administration Tool	埋込み。Oracle Business Intelligence Administration Tool に埋め込まれた UI コンポーネント。
Secure Hunny Mail ++	3.1.1.0	Oracle Business Intelligence Scheduler	埋込み。
Sun Java SE	1.5	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み。
STLport Consulting の STLport Standard Template Library	4.5.1	Oracle Business Intelligence	埋込み。C++ Standard Template Library。
Sybase Adaptive Server Anywhere (ASA)	9.0.1.1922 (Windows のみ)	Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics	埋込み。Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics クライアントによって使用されるデータベース・エンジン。

表 21. 付属プログラム

ベンダーと製品	バージョン	Oracle Business Intelligence の関連モジュール	配布方法と説明
Zlib	1.1.4	Oracle Business Intelligence Disconnected Analytics	埋込み。添付ファイル、Siebel Remote ファイル および SISNAPI トラフィックの圧縮。
	1.2.3	Oracle Business Intelligence Presentation Services	埋込み。

ライセンス契約

今回リリースされる Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition にバンドルされる Apache 製品のライセンス契約の一部を次に示します。

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition は、Apache Software Foundation (www.apache.org) により開発されたソフトウェアを含みます。Apache コンポーネントは、次の条件に準拠します。

The Apache Software License, Version 2.0

Copyright (c) 2006 The Apache Software Foundation, All Rights Reserved

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

The Apache Software License, Version 1.1

Copyright (c) 1999 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- The end-user documentation included with the redistribution, if any, must include the following acknowledgment: "This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)." Alternately, this acknowledgment may appear in the software itself, if and wherever such third-party acknowledgments normally appear.
- The names "Xerces" and "Apache Software Foundation" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact apache@apache.org.
- Products derived from this software may not be called "Apache", nor may "Apache" appear in their name, without prior written permission of the Apache Software Foundation.
- THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

STLport Consulting's STLport Standard Template Library License Agreement

Copyright 1999,2000 Boris Fomitchev

This material is provided "as is", with absolutely no warranty expressed or implied. Any use is at your own risk.

Permission to use or copy this software for any purpose is hereby granted without fee, provided the above notices are retained on all copies. Permission to modify the code and to distribute modified code is granted, provided the above notices are retained, and a notice that the code was modified is included with the above copyright notice.

The Licensee may distribute binaries compiled with STLport (whether original or modified) without any royalties or restrictions.

The Licensee may distribute original or modified STLport sources, provided that:

- The conditions indicated in the above permission notice are met;
- The following copyright notices are retained when present, and conditions provided in accompanying permission notices are met:

Copyright 1994 Hewlett-Packard Company

Copyright 1996,97 Silicon Graphics Computer Systems, Inc.

Copyright 1997 Moscow Center for SPARC Technology.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. Hewlett-Packard Company makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. Silicon Graphics makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. Moscow Center for SPARC Technology makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Open SSL version 0.9.8c License Agreement

Copyright (c) 1998-2006 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1 Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2 Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3 All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
- 4 The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
- 5 Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
- 6 Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

4

製品およびプラットフォームの可用性に関する最新情報

製品および機能の可用性

この製品で一般的に利用できる機能の一部が、特定の運用環境で利用できない場合があります。これは、ほとんどの場合、サード・パーティ製品のサポートの制限によるものです。ただし、特定の運用環境で個別の機能が利用できなくても、製品全体としては、仕様どおりに動作します。

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition リリース 10.1.3.2 製品の可用性の例外を、[37 ページの表 22](#) に示します。機能の可用性の例外は、[37 ページの表 23](#) に示します。

表 22. 製品の可用性の例外

Oracle 製品	制限タイプ	可用性の問題
Oracle Business Intelligence	ディレクトリ・サービス (LDAP)	Oracle Business Intelligence は、認証目的にのみ Microsoft Active Directory をサポートします。
Oracle Business Intelligence	言語	Oracle Business Intelligence は、アラビア語またはタイ語をサポートしません。これは、サード・パーティ・ソフトウェアの制限が原因です (Corda)。
Oracle Business Intelligence Delivers	プラットフォーム	Oracle Business Intelligence Delivers (Scheduler データベース) は、Teradata でサポートされていません。ベスト・プラクティスは、Teradata を「通常の」バックエンド・データベースをクエリー用に使用し、Oracle、DB2 または SQL Server をスケジューラ・データベース用に使用することです。
Oracle Business Intelligence	プラットフォーム	オラクル社では、Veritas などのサード・パーティによるクラスタ化製品を使用した、Oracle Business Intelligence のクラスタ化のテストまたはサポートを行っていません。
Oracle Business Intelligence	言語	ヘブライ語ローケールは、Microsoft Internet Explorer でのみ使用できます。

表 23. 機能の可用性の例外

製品	機能	制限タイプ	可用性の問題
Oracle Business Intelligence	Usage Tracking	機能	Usage Tracking 機能は、Teradata プラットフォームでサポートされていません。

5

計画されている動作確認

この章では、2007 年の前半に予定されている Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition の今後のリリースで計画されている動作確認について説明します。

Web ブラウザに対して計画されている動作確認

表 24. Web ブラウザに対して計画されている動作確認

クライアントのオペレーティング・システム	動作確認が計画されている Web ブラウザ
Solaris	Firefox 2.0
Mac OS 10.x	Firefox 2.0

サーバーのオペレーティング・システムに対して計画されている動作確認

表 25. サーバーのオペレーティング・システムに対して計画されている動作確認

Oracle Business Intelligence のコンポーネント・タイプ	動作確認が計画されているサーバーのオペレーティング・システム
Oracle Business Intelligence Server	IBM AIX 5.2、5.3 (32 ビットと 64 ビット)
Oracle Business Intelligence Presentation Services	
Oracle Business Intelligence Publisher	HP-UX 11.11、11.23、Itanium および PA-RISC (32 ビットと 64 ビット)
	Solaris 9、10、SPARC (32 ビットと 64 ビット)

Web サーバーに対して計画されている動作確認

表 26. Web サーバーに対して計画されている動作確認

サーバーのオペレーティング・システム	動作確認が計画されている Web サーバー
Microsoft Windows	Sun Java System Web Server 7.0 Oracle Application Server 10.1.2.0.2 IBM WebSphere 6.1
Linux	Sun Java System Web Server 7.0 Oracle Application Server 10.1.2.0.2 IBM WebSphere 6.1
HP-UX	Oracle Application Server 10.1.2.0.2
IBM AIX	IBM WebSphere 5.1、6.0、6.1 Oracle Application Server 10.1.2.0.2
Sun Solaris	Sun Java System Web Server 7.0 Oracle Application Server 10.1.2.0.2

Web ポータルに対して計画されている動作確認

動作確認が計画されている Web ポータルは次のとおりです。

- Oracle WebCenter 10.1.3.2

言語に対して計画されている動作確認

2007 年夏に Oracle Business Intelligence Enterprise Edition での動作確認が計画されている言語を表 27 に示します。

表 27. 動作確認が計画されている言語

動作確認が計画されている言語
ギリシャ語
ハンガリー語
ノルウェー語
ポーランド語
ルーマニア語
ロシア語

表 27. 動作確認が計画されている言語

動作確認が計画されている言語
スロバキア語
トルコ語

